

# ライフラインを築き直して創る安心

家を新しくするなら、

もちろん見た目はきれいにしたい

でも大事な、見えないところを

忘れてはいないだろうか？

床下に隠れた古い水道管や電線…

経年劣化の起きた部分をきちんと直し、

新しい我が家を土台から支える

安心できるリフォームの形



箕面電設株式会社(箕面市)



専務取締役 庄司修二

打ち合わせから決済まで一貫して担当。全工程を把握しているゆえの、その場で見える診断・見積りに定評。

**こだわりは「いい仕事をする、それだけです」**

こだわりは、お客さんに持つてもらうもの。どんな材質でどんなデザインにするか、そういうこだわりはお客さんが持つべきものです。我々はそれを手助けするだけ。希望の予算内でいかにこなしていくかを考えます。ただ、見ばえだけでなく、安くおさえるというやり方もあるけれど、我々が目指すのはそうではなく、できるだけいいものを使って、いい仕事をする。見ばえがよくても、実際使ってトラブルが起きたら困りますよね。我々もともと電気・水道の設備工事から始まった会社で、いわばライフラインの整備が得意分野です。だから、キッチン一つ取り替えるにしても触れるかぎり、配線や配管の整備を重視します。例えば、言われていなくても工事範囲の水道管や電気ケーブルはチェックしますね。不具合があるケースが意外と多いです。腕のいい作業員がそろってまずからね、任せてください(笑)。たとえ小さなことでも予算内でいい仕事をする、しいて言うならそれがこだわりです。

# 見えないところを大事にしながら 適正価格を実現したリフォーム

リフォームの相談をすると、家に来てくれるのが庄司修二さんだ。専務ながら営業の第一線に立ち、打合せから施工まで一貫して担当する。もともと約40年前に電気・水道設備を専門にスタートした同社。ライフライン整備がお家芸ゆえ、工事内容の診断、費用の概算まで即座に示せるのが強み。「最初のお見積もりから、ほとんど追加料金は発生しませんね」と庄司さん。通常、他の専門業者に施工を依頼すると、打合せ回数も多く

なり人件費も嵩む。専門知識を持つ庄司さんが一括して窓口となるのが、適正価格につながるという。しかも安値を追求した結果ではなく、見えないけれど最も大切なライフラインを専門家に任せての適正価格だ。

5年前庄司さんが、築10数年の自宅をリフォームした際には、南西向きのキッチン台を北向きにつけかえた。これは「南西の角に火があるとうよくない」という風水の考え方を

反映したもの。こういった床下の配管まで触る工事はかなり手間がかかるものだが、同社にとっては「造作ないこと」だったという。「水廻り、電気廻りは得意分野ですからね。キッチン、お風呂、トイレの大改造には自信を持っています」。床下や壁中にある水道管や電線など、見えない部分のライフラインをしっかりと築き直す。電気・水道設備から出発した会社ならではの丁寧な仕事が、紹介による顧客を増やしているという。



1.リフォーム前の浴室は玄関に向けて窓が設けられていた。  
2.新しい浴室では窓をガレージ側に移動、湯船の位置も90度回転させて落ち着く空間に。浴室暖房も設置した快適スペースにはテレビを設置、浴室を彩る7色の照明もあって子どもさんも喜んでお風呂に入るといふ。



築20年の家を入居前にリフォームしたY邸。3.もともとキッチンの壁はタイル貼りだった。4.新しいキッチンは、今流行のキッチンパネルにして新型のシステムキッチンを導入、ぐんと明るくスタイリッシュに。5.リフォーム前、ふすまサイズの2枚の引き戸が付いていた和室。6.リフォーム後。畳の代わりに、若い施主夫妻の使い勝手のよいフローリングにし、開放感のある曇りガラスの窓が付いた3枚引き戸に変更。できるだけ低予算でという希望に応えて、予算内で最良の建材を選び出した。



7.社員のほとんどが電気工事と水道工事、両方の国家資格を持っている。いわばライフライン工事の専門家集団。現場では一人の工士が電気・水道両方の施工を担当し、質の高い施工を実現している。一人で担当することで施工料金も相当下がる。8.水まわりのリフォームを行う場合、古い下水配管などは依頼されなくてもサービス交換することが多い。「お客様は下水配管の痛み具合まで細かく見て、オーダーできませんからね。自社施工だからできるサービスです」と庄司さん。



静かな住宅地にある同社。快適な住まいづくりに関して、どんな小さなことでも相談に応じるのが身上。4月からは新社屋に移転予定。